

『新型コロナウイルス感染症』 に対して2020年5月末 に思ったこと



深川医師会
深川市立病院

代 田 剛

今年はまだ5ヵ月しか経っていないのに、たくさんの流行語大賞の候補が出てきた。『緊急事態宣言』『自粛』『三密』『不要不急』『無観客（試合）』『ステイホーム』『自粛警察』『ソーシャルディスタンス』。これらは皆『新型コロナウイルス感染症』関連のものである。『新型コロナウイルス（感染症）』も、WHOは正式には「COVID-19」と名付けたが、後者は何かとりすました語感で、やはり新型コロナウイルスの方が、疾患とそれによってもたらされる現象をイメージさせ、単語としては分かりやすいと思われる。

このウイルスが人間と関わってから約半年強であるのに、非常にたくさんの影響を人間にもたらした。人類誕生からおよそ200万年、そこまで言わないとしても、日本で記録がある程度残っている時から現在までの0.0Xパーセントの期間にさまざまな結果をもたらし、これからの生活に変化を起こさせるであろうと思わせる。死者数は非常に死亡率が低いといわれる日本でも898人、世界ではおよそ37万人（5月31日現在）になった。中世のペストは、当時の世界の人口の22%、1億人が死亡したと言われており、たかだか約100年前の“スペイン風邪”でも日本だけで約39万人の死者と言われている。それらに比べればはるかに少ない数ではある。そこは医学・公衆衛生学の進歩である。

社会・経済の分野でも90年前の大恐慌が結果的には世界大戦へとつながっていったが、この件で世界的に大不況になるのは間違いないところでありながら、今のところそのような事態にはなっていないのは少しばかり気を休ませてくれる。世界中で戦争など起きないことを願うところである。

さてもっと細かいところを見るといろいろあった。例えば「自粛せよ」と大きな圧力を掛けられたパチンコ店。しかしこれが却って他県からも含め、多くの客を呼び寄せたのも事実である。そういえば知事の要請を撥ね除けてさいたまスーパーアリーナでのK-1 興行というのもあった。これで感染した人がいたのか、その顛末は全く報道されていない（私の知る限り）。いずれも生活が懸かっている人たちと娯楽とする人から成り立っている。まさに自由主義国家であるから開催されたのである。この機会に『自粛』とは、そして『圧力』の意味について考えることは必要であろう。日本においてこれまで感染者と死亡が少ないことに対してはいろいろと言われ

ている。一時声高に言われたBCGは最近あまり重視されていないようだ。マスクと自粛が最も大きい要因であろうと私は思っている。行政の長の『自粛』発令に対して、「日本人はお上の言うことには唯々諾々と従う習性だから」と見下した発言をしたコメンテーターもいた。狭い国土の中で、軒と軒を連ねる住居の中で、周囲との調和を心がけながら生きてきた日本人の歴史が、『自粛』にも発揮されたのであろう。

新型コロナウイルス感染症については分かってきた事柄もあるが、SARSのように消えてしまうことはなく、いわゆる風邪の原因ウイルスであるコロナウイルス群と同じように、常在するウイルスとなる可能性があるといわれている。そうなるワクチンということになるだろう。そのワクチンがいつでき、多くの人が恩恵にあずかれるか、今は全く分かっていない。

日本でのオリンピックはどうなるのであろうか。最終判断は10月とIOC会長は述べている。最近中止の発言もチラホラ聞こえてきている。このところ中止の発言の責任を互いに擦り付けているのを聞くと、たぶん中止になるだろうと私は推測している。あまりに商業主義に偏り、肥大化したオリンピックを再考するのも、「新しい生活」として意味があると思う。皆様がこの文章を読むのは約2ヵ月後であるので、その頃には、新しい事実・現象が出ていられると思われる。このコロナウイルスとは長く付き合わなくてはならないらしいので、これからもいろいろ対応しなくてはならないだろう。医療者である我々は新しい情報を得るようにし、より大きな注意をしないといけない。

(2020年6月2日記)

